

花写真のボケの活用

花の写真はきれいに写って当たり前と言われますが、表現方法は無限にあります。写真の上手な見せ方の1つに「レンズのボケ味」を活かした写真撮影法があります。特に草花の近接撮影ほど絞りの活用次第で見栄えのする写真に変わります。

ピントを合わせてシャープに見える部分とその前後に広がるボヤける部分のボケ具合で写真は構成されます。

ピントの合わせた部分から前にカメラ側に向かってボケ具合が浅く、逆に遠くなるほどボケ具合は厚くなります。

レンズの違いや絞りの数値を変えて撮影するとボケの範囲も変わります。

ボケ味をコントロールすることで写真が変わります。

撮影時の注意

- 被写体に当たる光の向きに注意をする。
- 前ボケの花の大きさを画面で確認をする。
- 主体の花とボカス花と大きさに注意をする。
- 被写体に合せた「絞値」を選ぶ。
- 背景の草花の重りが多い時等は絞りを開いて数値を小さくする。
- 前ボケさせる被写体はレンズの前面に近づけ撮影する。

花やティシュペーパー等の利用次ページ参照

被写界深度

同じレンズでも絞値を変えるとピントの合う範囲が異なります。

作例写真 標準レンズ 50mm で撮影



絞値 F 2.8
ISO400 1/1000



絞値 F 8.0
1/250



絞値 F 16.0
1/125

撮影時に使用する ISO 感度でシャッタースピードが変わります。

絞り口径数値の大きさを変える事によって写真の印象を変えることができます。

焦点距離の短い広角系のレンズは焦点深度が深く（厚く）なります。

焦点距離の長い望遠レンズは焦点深度が逆に浅く（薄く）なります。

焦点深度は絞りを大きく絞る程深く（厚く）なります。